

気仙医師会学術講演会

気仙地区糖尿病治療講演会

◎日時：2018年12月6日（木）19：00～21：00

◎会場：大船渡プラザホテル1階「鳳凰の間」

座長 岩手県立大船渡病院 副院長・内科長 九尋良 徳彦 先生

【一般講演】

「2型糖尿病患者におけるデグルデクの使用経験」

演者 岩手県立大船渡病院糖尿病科 内科 医長 外 舘 祐 介 先生

インスリン製剤「トレシーバ」「ライゾデグ」の作用機序の紹介。

DEVOT 試験の紹介と CVOT について紹介。

低血糖および重大な低血糖を起こさない治療の重要性について。

高齢者糖尿病の治療目標の紹介。

大船渡病院での症例報告

① グラルギンからデグルデク（トレシーバ）への切替

認知症、独居、A1c9～12%台

グラルギン 14 単位+速効型+経口薬

デグルデク 10 単位+週 1GLP1RA

平均血糖 149→130 へ改善

② 64 歳 BMI37.6 A1c8.1%

デグルデクを増量しても低血糖を認めなかった

8.1%→7.9%

血糖コントロール不良でも低血糖増えず。

ライゾデグ 6 単位

8.1%だが低血糖多かった

実際 FGM でみると低血糖なく安定

75 歳だったのでインスリン減量

③ 後期高齢者のライゾデグ 1 回注

75 歳女性 大腸癌術後 HbA1c8.1%

ライゾデグ 6 単位+経口薬で HbA1c は高値であるが FGM で推移を確認したところ、  
日内変動は安定しており、時々食事の影響などで高い時間帯がある程度であった。

年齢を考慮しその後インスリン減量。

④ 後期高齢者のライゾデグ 2 回注

ライゾデグ 5-0-5+経口薬

A1c6.2%だったが SMBG が出来ない患者の為 FGM で推移を確認

131.5±32.3 と 2 回注でも安定した血糖コントロール。

管理目標以下の管理が続き、インスリン減量。

⑤ 入院中の後期高齢者 BBT→ライゾデグ 1 回注への切替え

BBT→ライゾデグ 1 回 入院で管理

86 歳女性 随時血糖 420 HbA1c9.8%

BBT6-3-3-12 で安定したがライゾデグ 10 単位へ

それでも安定したコントロール

デグルデグの適した症例とは

1 型やインスリン分泌不全

高齢者